

バトルメック 戦場の
覇者 ~戦えば壊れる
ので修理しなければ戦
えません~

Haltforce

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

戦場の覇者バトルメック、核融合炉を持ち人工筋肉で稼働する鋼鉄の装甲を装備した31世紀の戦場を支配する巨人である。

だが戦場の覇者たるバトルメックとて、修理・整備する者が居なければその力を発揮する事は出来ない。

これはバトルメックと、バトルメックを駆るメック戦士達を支える整備兵の平凡な日常の日々の記録である。

p r o l o g u e

2021年

超光速理論発表される。

外部電力ライン接続確認、供給電圧正常、外部電力ライン接続

2027年

核融合炉船が火星に2週間で到達、人類は本格的な宇宙時代に入る。

バッテリー残量76%、充電電流正常値、外部電力供給電圧変動なし、神経反応ヘルメット接続

2108年

超光速宇宙船が処女航海に、人類は遂に新しい植民地時代を迎える。

融合炉燃料残量62%、融合炉内圧正常値、各動力ライン閉鎖確認、融合炉磁場回路冷却開始

2314年

広がった版図を管理しきれず地球連盟崩壊、地球帝国誕生。

各植民地にも独立勢力として王家が生まれ、人類は貴族社会へと逆行していく。

各動力ライン磁場回路冷却開始、センサー、エンコーダ信号正常、ジャイロ起動

2340年

核融合炉のプラズマを直接エネルギーとして稼働する高効率駆動装置^{マイアマ}人工筋肉^{マイアマ}発

明。

融合炉磁場回路正常値、^{Magnetic Bottle}磁場生成確認、^{リアクター}融合炉始動

2370年

^{リアクター}小型核融合炉と^{マイアマ}人工筋肉を使用した作業機械^{メツク}誕生、普及し始める。

融合炉内圧力正常、供給、出力、正常値確認、プラズマセル発電開始、出力電力正常

2412年

アルス条約締結、民間人への攻撃や惑星環境を破壊する攻撃が禁止される。

^{プラズマ磁気瓶}各動力ライン磁場回路正常値、^{Magnetic Bottle}磁場生成確認、右腕動力ライン接続、プラズマ

循環確認

2439年

メツク技術を元に最初の量産型バトルメツク「マツキー」地球帝国で生産開始。

右腕マイアマ動力接続、関節テンションバランス調整、既定値へ、右腕周囲安全確

認

右腕関節ロック解除

2443年

バトルメック「マッキー」初の実戦参加、その機動力・汎用性は戦場の光景を一変させる。

各王家もバトルテックの研究・開発を始め、様々なバトルメックが開発・製造される。

右腕可動確認、手駆動装置正常、下腕駆動装置正常、上腕駆動装置正常

続けて左腕動力ライン接続・・・

2571年

地球帝国と大きく植民地を支配する5王家を中心に星間連盟成立。

地球帝国総帥のイアン・キャメロンが初代首長に就任。

ジャイロ安定、神経反応ヘルメット確認、バランス正常範囲確認、外部電力ライン切

断

「機体^{ガントリ}固定解除要請」

2630年

極高周波^H発生装置^P発明、星間連盟は超光速通信を得て黄金期を迎える。

固定解除確認、自立動作^{ジャイロ}確認、進路安全確認

「予定通り射撃場にて稼働テストを行う、BLR-1Dバトルマスター出動」

2781年

5代目首長シモン・キャメロン事故死、8歳のリチャード・キャメロンが首長に就任。

星間連盟軍将軍アレクサンドル・ケレンスキーが摂政に就任。権力争いが激化。リチャード首長が暗殺され、5王家が自身を首長とすべく暗闘。

仲介に尽力した星間連盟軍将軍の罷免をもって星間連盟は事実上崩壊した。

歩行正常、姿勢制御正常、格納庫ゲート通過、レーダー、センサー起動、バイザーへの投影確認

2784年

星間連盟軍の大半が罷免されたケレンスキー将軍に従って中心領域を離脱。

総帥を失い星間連盟も瓦解した地球帝国は崩壊、名譽だけの国となる。

「射撃場に到着した、これより兵装へのエネルギー供給を開始する」

胸部中口径レーザー電力供給開始

2786年

星間通信網を守ると言う題目の下、地球に本部を置くコムスター設立。

だがその組織は宗教組織の形態を取る。

中口径レーザー群正常確認、出力パイロットレベル設定、照準同期確認、第1レーザー

から順次発振

2787年～2821年 第1次継承権戦争勃発

アルス条約は破棄され人類に破滅的な被害を与え、滅亡した惑星も現れる。

中口径レーザー群、全問照準正常確認、出力100%にセット、距離200m、チャージ完了

「ML斉射」全弾命中！

2830年～2864年 第2次継承権戦争勃発

文明を維持できなくなり、辺境では修理出来ぬ高度機械の横で牛で畑を耕す光景も現れる。

胸部短距離ミサイル残弾確認、残弾6、弾種訓練用模擬弾頭、確認完了、動力ライ

ン接続

2866年～3025年 第3次継承権戦争勃発

既に人類に総力戦を行う力は無く、辺境で小競り合いをいつまでも続ける状態まで低下。

もはや人類は、わずかに残った星間連盟の工場でかろうじて文明を維持している状態である。

ミサイル装填完了、推進用プラズマ充填完了、照準同期確認、距離200m「SRM

発射」4発命中！

3028年

様々な困難を受けながら、グレイデス軍団は星間連盟の図書館の全情報を得る。

Particle Projector Cannon
粒子ビーム砲 電力供給開始、自己診断正常確認、粒子残量32%、動力ライ

ン接続

3028年～3030年

ダヴィオン家、シュタイナー家の結婚による同盟と同時に、第4次継承権戦争勃発。

腕部照準同調システム正常確認、磁場生成確認、粒子イオン化処理正常、エネルギー

充填60%

3030年

第4次継承権戦争終結、グレイデスメモリーコアが公開され文明の回復が始まる。

イオン化粒子注入、初期加速グリッド充電完了、磁場加速レール伸長確認、熱分布正

常値

距離200m、周囲待避確認「PPC発射」命中！

そして3049年

文明は順調に回復し、各王家は戦力の回復に努め、一時的に政情は小康状態を保つ

ていた。

だが中央領域の人々は知らなかった、新たな激動の時代が目前に迫っている事を。

冷却システム正常放熱確認、全武装動力ライン切断

「BLR―1Dバトルマスター、全動作テスト成功、修理完了、これより格納庫へ帰還します。」

まあコクピットへの直撃だけで、ほとんど壊れてなかったのだから修理はすぐ終わるわな。

しかし隊長も運が無いよなあ・・・近代化改修が終わって出撃したら狙撃がコクピット直撃とか。

せっかく脱出コクピットまで設置したのに、コクピット直撃じゃ助かる訳がないよなあ。

隊長の長女さんが、次男さんが成人するまで隊長を代行する方針らしいけど、これからうちの大隊どうなるのかねえ。

これは激動の時代に生きる、とある弱小バトルメック傭兵大隊の・・・1整備兵^{テック}の物語である。

LCT-1E LOCUST

ちつ。

おい、今回このローカストで出撃した奴は誰だっ?!

ドラン? よし、今すぐ呼んでこい!

おい! お前、このローカストは分類は何だ?

プロウラー スカーミツシャー ストライカー
主戦機か? 万能機か? 遊撃機か? それともまさか打撃機か?

ああ、そうだ偵察機だっ!

じゃあなんでその偵察機がオーバーヒート起こしているんだ?

機動力と火力が大幅に増強されたから、隙だらけの敵に使っただけ?

敵には打撃を与えたし、無事に生還したから問題ないだろ?! ばかやろう!!!

こいつの仕事は偵察だ! 敵を攻撃するより情報を持つて敵に見つからずに帰る事を優先しろ!

ましてや偵察機のこいつをオーバーヒートさせるとはどういうことだっ!

もし脚のマイアマー人 工 筋 肉がダメーシ受けたら、敵から逃げる事も出来なかったかもしれないな

いのだぞ。

ローカストで敵前で緊急停止シャットダウンしていたなら帰ってこれる訳が無いのだから、
過熱保護装置を解除して攻撃しただろお前。
シャットダウンオーバーライド

どうせ脚の遅い敵メックが少数で行動してうまく背後を取れたから攻撃したが、
背中抜けなかったから今度こそとオーバーライドして攻撃して、それでも倒せなかった
ので逃げてきたって所だろ。

あ、整備兵は偵察報告書なんて読んでいないだろうになんで分かるのかだって？

分からない訳無いだろ。お前の様な新兵が単独行動のローカストで血気にはやる状
況なんて皆同じだ。

こいつは我らが大隊の新技术試験メックに選ばれたので、ローカストとは思えないほ
どの火力がある。

装甲も速度も、原型から比べれば非常に強力だ。その性能を十分に発揮させてみたい
と言う気持ちは分かる。

だが所詮20t級としては、だ。ラッキーヒット一発でも行動不能になりかねない機
体なのは変わらない。

偵察機は敵の存在を報告するのが仕事だ。避けられる戦闘は避ける。

もし偵察機が血気に逸って偵察中に交戦し、撃破された場合、どうなると思う。

その敵部隊は目的を達成する事に成功し、その分、こちらは苦境に陥る。

更に大隊としては、偵察機が逃げ切れないだけの戦力を持った部隊が偵察範囲に存在している可能性を考え、偵察機に予備兵力の遊撃機を加えて強行偵察部隊を編成して調査を行う事になる。予備兵力を動かす事で襲撃を受けた場合の防衛が手薄になり、更に部隊のローテーションも狂う事でその後もしばらく戦力が低下する事になる。

又、言うまでも無い事だが大隊は近代化改修した強力な偵察機を失う事になる。

お前が無茶をしてお前が死ぬ事が、最悪、部隊全体を困窮させる事にもつながりかねない。

今回はお前も生きて帰って来る事が出来たが、実は問題はまだある。

幸い、装甲は抜かれておらず、一見機体にたいしたダメージは無いように見えるが、お前がオーバーヒートさせたため、機体内部で漏れたプラズマが機体各所にダメージを与えている。装甲のダメージなら明日の任務までに修理してみせるが、内部構造に直接ダメージを受けているので、全ての装甲を外してC整備を実施する。

最低でも3日はこいつは出撃不能だ。

その間はフェニホあたりの遊撃機を1機、偵察部隊に回してもらって穴埋めする事になるだろう。

とりあえず、こっちの報告書が回ったら小隊長から呼び出されるだろうから、ぶん殴

られる覚悟して始末書を書いていな。おら、自分が何をやらかしたか判つたらとつと行け。

はあ、偵察でオーバーヒートなんかさせやがって。面倒なんだよオーバーヒートの後始末は。

動力ラインの超電導体の冷却が追いつかなくなると、超伝導が失われて磁場が保てなくなり、プラズマが機体内に吹き出してしまう。動力ラインは機体全体に張り巡らされているので、何処がダメージを受けているか全てチェックしなければならぬ。…めんどくさ。

おう、こいつはC整備だ。整備ドックへ移動させてくれ。オーバーヒート検査を行うので融合炉を完全停止。放射線量が安全値まで低下したら動力ラインの破損箇所の確認を行ってくれ。放射線量が低下する前に全装甲を外して内骨格ストラクチャと各機器に漏れたプラズマが当たっていないか線量チェックと目視チェック、怪しい所は強度検査を行ってくれ。ああ、正規手順だ。耐久力の低いこいつじゃ、わずかな損傷が生死を分ける事態になりかねない。面倒でもしつかり検査しろ。整備兵が手を抜けば、戦場で兵士が死ぬんだ。

さて、開店休業状態の第1中隊の第1小隊長殿に遊撃機を1機、第3中隊へ回しても

らう根回しをしておこうかね。

フェニホカグリフィンあたりの修理の進行状況はどんなもんかいなつと。

RFL-3N RIFLEMAN

オーライ、オーライ、オーケー、ストップ。

ガントリーアーム接続、搭乗橋接続、衛生兵！行け！

はあ、良く帰ってきたな。隊長の二の舞にならずに済んで良かった。

脚以外の装甲はほぼ全壊、内骨格もストラクチャぼろぼろ、右腕は脱落して右胴まで崩壊、キャノピーもぶち抜かれてセンサーをやられている。本当、よく生きて帰ってきてくれたよ。

こいつが敵正面で踏ん張ってくれたおかげで、遊撃機が敵の背後を突いて完全勝利を取る事ができた。こちらが60t大破に対して、70t、50t撃破、40t中破で退却だ、大勝利だな。

味方が数で優位で、相手部隊にジャンプジェット所有機がなかったからこそ取れた戦術だが。

・・・何故3機という中途半端な数で、それも打撃部隊でここまで接近してきたのかは、調査部隊が調べてくれるだろう。

よう、ヒーローのお出ましだな。あ、そう言うなって、偵察機が捕まる前に救援が間に合つて、おまけに高所から敵を釘付けにしてくれたおかげで背後から奇襲する事が出来た。

隠蔽からの中距離砲戦に優れているとはいえ、装甲が厚い訳では無いライフルマンで良く耐えてくれた。できれば心臓に悪いので避けて欲しい位だがな。

そんな事より、あいつを偵察機扱いするのは止める？あーうん、まーそーだよなーおれもそーおもーわー。

でもあいつ足遅いけど、狙撃用にセンサー優れているから偵察機の穴埋めに差し出されてなあ。俺はフェニホを要望して急いで修理したんだけどなあ。中隊長殿、むしろ今回の件で判断は正しかったとやってるから。まあ間違つては居ないけど、あの人フェニホ好きすぎの万能論者だからなあ。

それで今回のヒーローメックだが、ほぼ全損寸前の状態で、修理にはかなり時間がかかる事になるんだわ。怪我が治つても、しばらくの間はお前のライフルマンではなく部隊の予備機体に乗ってもらう事になる。

で、だ。部隊としてはどうせ大半の機材を入れ替える修理を行うのだからと言う事で、今回の功績も含めて、機体全体を近代化改修する事を検討している。修理期間が少し延びる事になるが、かなり強化できると考えている。

右腕の武装はどちらも完全に破損しているし、左腕のオートキャノンも破損している
 ので、レーザーは射程延長型大口径レーザーに換装し、オートキャノンも
 5口径ウルトラオートキャノン

に換装、エンジンも動いているのが奇跡と言いたくなる状態で、今回、XL融合炉に
 換装して出力の強化と重量の軽減を図る。これで高所を取る苦労も楽になると考えて
 いる。

更に内骨格もこの機会にエンドースチールに交換して更に重量の軽減を図り、空いた
 重量で弾薬の大幅増加と増加装甲の追加を行い、放熱器も強化型に換装する。新装備で
 増える発熱を考慮しても、従来より熱管理はかなり余裕が出ると考えているよ。

まだ最終決定ではないけど、今回の功績も鑑みて、ここまでの強化を考えているが、ど
 うする？

特にまだ安定性が低く、ときおりジャムつてしばらく撃てなくなる
 5口径ウルトラオートキャノンより、従来型の5口径オートキャノンにしておくか、あ
 るいは射程の長い2口径にするか、威力を期待して10口径にする方法もある。10口
 径に大型化した場合、他の部分のしわ寄せが大きいがな。

ただ、5口径ウルトラオートキャノンの威力はやはり魅力なので、ジャムつた時の火
 力低下を抑えるために、大口径レーザーを換装せず発熱を抑える事も考えているが、武

装の有効射程を考えると換装しておきたいと考えている。いっそ自衛用
 中口径レーザー^{Medium Laser}を撤去してその分も放熱器に回して、発熱に対抗する事も考えている
 よ。元々支援機^{ファイヤーサポート}だが、完全に狙撃機^{スナイパー}になってしまおうがな。

あーうん、ついでに言っておくと、この改修を行ったら、できるだけ狙撃機^{スナイパー}として行
 動してくれな。XL融合炉^{XL ENGINE}や射程延長型大口径レーザー^{ER}は高いので、なるべく壊さない
 ように、撃たれないように、今回の様に主戦機^{プロウラー}の様な行動はなるべく避けてくれ。命に
 は代えられないので絶対とは言わないが、部隊の整備責任者としてお願いする。

それから融合炉をXL化すると、エンジンが大型化して側面まで張り出すので、胴側
 面を抜かれるとエンジンが破損する恐れがある。主戦機^{プロウラー}にはXL融合炉^{XL ENGINE}が向かないと
 言われる原因だが、ダメージコントロールはこれまで以上に慎重に行わなければならな
 くなる。

これが不安であれば、エンジンは通常型^{STANDARD ENGINE}にしておく事もできるが、XL融合炉^{XL ENGINE}に換
 装すると240MW級で5.5tの軽量化が図れる。とんでもない軽量化だ。

エンドースチールでのフレーム軽量化が3tなのを考えると、狙撃機^{スナイパー}としては換装し
 てほしいと考えている。

エンジンを換装して軽量化しつつ255MWまで増強し、浮いた8tの内4tを追加
 装甲としてダメージ耐性を高め、2門のオートキャノン^{AC}をウルトラオートキャノン^{UC5}に換

装するのに2t、残り2tは弾薬AMMOを追加する。

追加される弾薬AMMOは、運搬経路の簡略性から胴部に搭載するのが簡単だが、近年、脚部に弾薬AMMOを収納し揚弾薬機で胴部へ供給するシステムが流通している。脚部を狙われにくい支援機には手間をかける価値のある機構なので、融合炉の高出力化で融合炉内に収容された脚部放熱器の空きスペースに弾薬庫を設置する方法を検討している。この方式を採用した場合、地雷やカバン爆弾には注意してくれ。

と言う訳で今週中にプランをまとめたいので、この仕様選定書を持っていったら、3日中に方針を決定してくれ。

従来通りが良ければ、内骨格ストラクチャの換装と弾薬AMMOの追加だけ、とかも出来るので、気軽に要望を上げてくれヒーロー。何？改造しすぎて気がついたらジャガーメックになってしまったつてのは無しだと。

ははは、俺にそこまでの製造技術は無いよ。そんな能力があれば傭兵団の整備兵ではなくルシエンアーマーワークスかニューアヴァロンにでも入っているよ。しかし相変わらずジャガーメック嫌ってるな。ライフルマンの子孫じゃないか。

まあ確かにライフルマンの子孫ってよりスモウレスラーの様な姿だが。

ああ、ずいぶんと待たせたな。遂に近代化ライフルマンのロールアウトだ。ウルトラオートキャノンのジャム対策には苦労したが、仮組みの頃に比べて15%はジャムの回復時間を短縮できたはずだ。

・・・ジャガーメックDDを鹵獲できた事ですいぶんと調整が進んだのは内緒だな。

おかえり、新型機の初陣で大戦果だな。このライフルマンの近代化改修成功を受けて、近年の敵勢力の増強に対抗するため、部隊のメックを至急近代化改修する事に決定了。

うちの雇用主は守ってくれているが、大統領から傭兵団への風当たりが非常に厳しくなっている。だが新隊長は契約を打ち切って新しい契約先を探すより、契約を継続する選択をしたからな。収入が当面は継続するので損害率が増えて資金を失う前に手持ち資金で部隊を強化する事を選択した。

戦力の増強を急ぐが、それまではこのライフルマンを始め、近代化改修済みの機体への負担が大きくなるが、どうかよろしく頼む。

CGR-1A1 CHARGER

「班長！」

どうした？

「お嬢様に領主殿から連絡が入って、偵察機不足への対応に、余っている大型偵察機を1機回してくれるそうです。」

ほう、朗報だな

これであいつを偵察任務から外せると良いのだが。

回収にパイロットの手配を用意しよう。

ところで、お嬢様じゃなく大隊長って呼ぶように。

・・・・・・・・・・・・・・・・どうしてこうなった

確かに、登録上の分類は偵察機スカウトなんだけどさ・・大型って言葉に注意するべきだつ

た。

えーっと簡易諸元を再確認

CGR-1A1 チャージャー 80t

エンジン スタンダート400

装甲 10t

最高速度 81km/h

追加放熱器 なし

武装 S L 5門

小口径レーザー

こいつをいつたいたいだろうと。ジャンプジェットも無いこいつに偵察させるのか？

中量級程度の速度はあるからあれよりは早いが・・・運用整備コストは80tだしなあ。

図体は強襲機アサルトだからよく目立つぞ。

「整備長、なんで強襲機アサルトが回ってきたのか判ったぞ。」

ほう？

「例の技術復活で修復された工場の生産計画として、役立たずとして放置されているチャージャーを改造してハタモトつて言うメックに作り替えられているらしい」

ハタモトか、たしか何年か前に初号機がロールアウトして、何種類か大統領府直轄で

試験運用している期待の星って話だったな。あれってチャージャーだったのか。

「で、その新型機がなかなか良いとのことと、大量生産のために全車で眠っているチャージャーを提出せよって話になって、チャージャーが集められたらしい。提出量や機体の状態で評価して、ハタモトの配布順番を考慮するって事で、辺境に閉じこもっている俺たちと違ってお貴族様方は大騒ぎだったそうだ。」

へー、全然知らなかつ・・・そういうえば2年ほど前に、チャージャー関連の在庫問合せがあつたな。補修部品が不足したのかくらいにしか思わなかつたが、これか。

って、あれ？

だつたらチャージャー俺らに回すより工場に持つてた方がよいだろ？なんで来たんだ？

「使い道がなくてあちこちに大量に眠っていたらしくて、工場の受け入れがパンクして、もうイランってなつたらしい。生産ライン20年分の素材が集まつたそうだ。」

わはは、そうか、そりやそうだな。

・・・さて、どうすつかね？

3000くらいのエンジンに空きがあれば、エンジンを交換して、胴体胸部に余裕があれば、大口径レーザー 粒子ビーム砲 LかPPCを搭載して見るか。

・・・

俺……偵察機に余裕が欲しいのに、なんで偵察機を主戦機プロウラーに改造する計画を立てているんだ

HBK-4P HUNCHBACK

お疲れ様。功を焦らず良く耐え、機に遅れず突入したそうだな。

「いや、攻撃が届かず、ライフルマンがダメージを受けているのをただ見ているだけだった」

ウオーハンマーがライフルマンに接近してくれば、ライフルマンでは耐えられなかっただろう。

ハンチバックが居るから、敵は接近するより遠距離砲戦を選んしてくれた。

「そうかもしれないが、それでもほぼ見ている事しか出来なかった」

そうだな、何も出来ず見ているだけだったのは辛いか。

うん、ハンチバックに遠距離攻撃手段を追加する方法を考えてみるよ。

だから勝ち残ったお前がそんな暗い顔しているんじゃない。

性能を落とさず重量のかさばる遠距離用兵器を追加するには、やはりエンジンを換装し、

更に放熱器をヒートシンク新型放熱器ダブルヒートシンクに変更する事で、

放熱能力を強化した上に重量を軽減する事ができるだろう。

ライフルマン用に発注するX^LL255の発注をもう一台増やし、エンジンが届くまでこのエンジンを^{標準型融合炉}使い回して両方の調整を行う方向で検討しよう。

エンジンをSTD200からX^LL255に換装し、15器あった放熱器を7器の
ダブルヒートンク
 新型放熱器に変更。

右肩に搭載した6連M^LLの1門を頭部へ移設し、新型兵器のサンプルとして購入したER—PPCを搭載する。
射程延長粒子ビーム砲

胴体と腕部機体構造の内部スペースをほぼ使い切るが、なんとか収まった。

脚部はスカスカになっちゃったが、重量に余裕があつたので脚部と胴部にわずかながらの追加装甲をつける事も出来た。

M^LLが付いていた所にPPCを付けるのは苦勞したが、コストはともかく性能的にはかなり良く出来ているのではないかと思う。

ER—PPCは、元々射程の長いPPCの射程を更に伸ばし、90m以内の標的に対して威力を得られないというの弱点を克服した、とんでもなく強力な兵器だ。
射程延長粒子ビーム砲

Particle Projector Cannon
 P P C は砲前方の空間に電磁界を生成する事で粒子の加速グリッ

ドを作りだしており、この加速グリッドが90mあるのでその中に敵など障害物が入ってしまうと電磁界の生成が阻害されて加速が得られず、破壊力を得る事ができなくな

る。

ER—PPCはこの加速グリッドを砲内に納めており、砲口から射 出された Particle 粒子はその時点で破壊力を持ち、空間に電磁界を生成するPPCより精密にエネルギーを与えられるため、射程も伸びている。

良い事ばかりの様だが、PPCでは空間に生成した電磁界が発する熱を、砲内で発生させてしまう。PPCの時点で発熱量の大きい兵器なのに、ER—PPCでは発熱量が1.5倍に及ぶ。とんでも兵器だ。

元々、M_Lを8門装備し発熱量が多いのに、全砲門一斉砲撃ではプラズマ消費に機体が追いつかず追加発熱が発生してしまうと言う、熱管理の厳しい機体であったが、ER—PPCを搭載した事で、それに拍車がかかった状態になっている。

放熱係数は22から34に強化したが、発熱係数も35から49に上昇している。やはりとんでもない。そして許容熱量は49から38に低下している。全門斉射1回でオーバーヒートだ。

・・・パイロットの管理能力を信じるしか無い。あいつなら焦ってオーバーヒートなどさせないだろう。

おう、またせたな。

通常任務の合間を縫って試験を行ってきたから時間がかかったが、これで正式に完成だ。

・・・繰り返し説明してうんざりしているだろうが、頼むから熱管理は気をつけてくれな。

とつさの熱管理に失敗しないよう、両腕のM中口径レーザーLはS小口径レーザーLに変更する事も考えたのだが、射界が厳しくなるので残したんだ。繰り返しだが、頼むから腕のMLとER|PPCを同時に使用しないでくれな。